

# 武蔵野市第五期基本構想・長期計画策定 関係市民団体会議（緑・環境・市民生活） 議事要録

---

■日 時 平成 23 年 2 月 19 日（土）午後 1 時 30 分～午後 3 時 00 分

■場 所 市役所 811 会議室

■出 席 山本泰委員長、見城武秀副委員長、  
小竹佐知子委員、近藤康子委員、作部径子委員、前川智之委員  
松本すみ子委員、会田恒司委員、井上良一委員、  
事務局（企画政策室長、企画調整課長、政策調整担当課長他）  
関係市民団体（62 団体 85 名）

■傍聴者 4 名

---

## 議 事

・委員長より委員紹介、会議の趣旨説明の後、関係市民団体との意見交換が行われた。

【武蔵野憲法市民フォーラム】平和はⅦの 3 の 11)「市民文化発展の支援」で言及されているが、持続可能な社会の大前提であり、市政の 1 つの柱だ。14) とでもして独立した項目にし、基本構想にも書き入れてほしい。

緑・環境・市民生活となっているが、市民生活は独立した分野にしてほしい。ずっと 5 つの分野でやってきているのを変えようという議論は以前からある。

地域コミュニティに関する市民を巻き込んだ議論の場を別につくってほしい。コミセン、地域福祉は地域によって違いがある。地域の活動の実績や今後の展望、希望を踏まえ、多数の人間の知恵で地域コミュニティをつくっていく姿勢が大事だ。

【委員長】平和については、別途設けられる圏域別ヒアリング、また文書でもご意見を寄せてほしい。

5 つの分野立ては歴史があるが、地域社会の課題は変化している。市民生活、コミュニティの重要性も認識している。分野立ての変更はさらに検討していきたい。

【武蔵野市NPO・市民活動ネットワーク】Ⅶの3の2)で「市は環境整備によって市民活動を支援していく」とある。環境整備とはどのような意味か。

武蔵野プレイスにおいて市民活動団体に対して支援を行うとあるが、NPOが抜けている。

2)では協働を結局どのようにとらえているのか。わかりにくいので教えてほしい。

討議要綱に市民協働サロン、NPO市民活動サポートセンター(仮称)の記述がないのはなぜか。特に3年近く活動を続けてきた市民協働サロンが言及されていないことへの疑問は強い。

【委員】環境整備は、ネットワークづくりの窓口のシステムの構築、またそのシステムの機能の充実を図っていくということだ。

プレイスの活動は、市民活動団体だけではなくNPOも対象にしたいと考えている。

地域の課題解決のための市民活動が重複するのは合理的でない。市としては、NPO、市民団体、企業、商店会等の団体がネットワークを組み、協働して課題解決に当たる形をつくりたい。

市は協働に参加するとともに、市民活動を担う人材の育成、その人材の活用のためのシステムづくりも含めて、協働に対する支援も行っていく。

市民協働サロン、サポートセンターが個別に盛り込まれなかったのは、市報掲載上の字数制限のためだ。実績を踏まえて継続してやっていただきたいと考えている。

【委員長】市民活動を助ける環境整備としては、市民協働サロンや市民活動サポートセンターで相談を受け付ける、市が活動場所、必要な専門的知識、活動資金を提供する、あるいは職員を相談役として派遣する等いろいろな形がある。これらの具体的な方法を今度の長期計画に書き、市民活動の支援を進めていきたい。

協働は、市と市民が行うもの、市民同士が行うものがある。両者は性格が違うので区別して議論すべきだ。前者の場合、市は協働の当事者だ。後者の場合、市がかかわり過ぎることの弊害もあり、市がどこまでかかわるのか、その思想を整理する必要がある。

【武蔵野ワンワンパトロール隊】高齢者世帯、子どものいない家庭を初め、ペットとの生活は重要性を増している。一方で、ドッグランの整備、ペットの医療制度、ペット関連産業を管理する体制の不備、虐待等の問題がある。計画の中でペットについても考察してほしい。

【委員長】ペットは新しい問題と認識している。

【災害助け合いの光和会】中央線高架化に伴い新しく道路が建設される。その道路へのバイパスとして生活道路への通過交通の流入が懸念される。道路は防災上も大切だ。生活道路を調査して、Ⅶ

の4の5)にあるような安全対策を実現してほしい。

【委員】生活道路への車の流入に対して、人に優しい道づくりの事業を進めてきた。それは市内のか  
の路線で実現できたと思うが、策定中の新しい市民交通計画の中でも取り組んでいきたい。

【吉祥寺西コミュニティ協議会】西コミセンはこどもクラブが移転して空き部屋ができたが、その利用  
のための予算づけがされていない。討議要綱にあるように、西コミセンと泉幼稚園跡地問題が  
セットで考えられているためにまだ解決できていないのではないかと。市の総務委員会では  
「両者は別物ではないか」という議員の発言があったのだが。

【委員長】地域の方々も納得でき、全市的にもバランスがとれる方向で事業を配置したい。圏域別市民  
会議もあるので、皆さんの希望を聞かせてほしい。そのほうが我々も動きやすい。

【市民まちづくり会議・むさしの】Ⅶの3の1)「地域コミュニティの活性化」は、重要な問題だが、  
前向きなコメントがほとんど見られない。ITコミュニティなど活性化している活動を、トラ  
イ・アンド・エラーやPDCAサイクルの仕組みを入れながら取り込んでいく等、チャレンジ  
する姿勢を書き込んでほしい。

同3)「緑豊かな都市環境」は、高齢化社会にもかかわらず、公園で憩う高齢者の姿が見られ  
ないことから、緑を生かす仕組みの充実について記述してほしい。

同7)「都市観光の推進」は、観光地ではない武蔵野市の場合、観光産業の推進ではなく、商  
業や農業の活性化、まちづくりの推進に観光を利用するという目的を明確に書いてほしい。

同13)「都市・国際交流の意義」は、これまでの成果が見えない。目的を明確化し、交流計画  
をきちんと立て、事業の継続・廃止の基準を定めてほしい。

【むさしのヒューマン・ネットワークセンター運営委員会】男女共同参画推進施策は、介護、子育て、  
教育、コミュニティ、就労支援、DV、健康など幅広い分野にまたがり、基本的には人権にか  
かわるものだ。全庁的な取り組みが必要な優先度の高い施策であり、その実現を目指すことを、  
基本構想・長期計画の目標と理念、分野別課題のところにそれぞれ明記してほしい。

【委員】男女共同参画が人権にかかわる考え方であること、したがって命や暮らしを守っていく上で  
非常に大事な、尊重していくべき考え方であることは策定委員会も認識している。この考え  
方を長期計画の中でどのように生かしていくか、策定委員会でさらに話し合っていきたい。

【虹の会】従来の長計は市民生活を守る視点が欠けていた。今回はその点に言及してほしい。具体的には、食品に対する自治体の厳しい管理体制。相続問題や家屋の建てかえに絡んで容積率を改定するなど住みよいまちにしていくこと。環境に絡んで、家庭の太陽光発電設備改善への助成強化、民有地の緑をふやすための植栽への支援について記入してほしい。

【武蔵野自然塾】緑の必要性、緑は我々が作り保っていかなければいけないものだという環境に対する視点を、実際に自然に触れる形で子どもたちに植えつけることが大事だ。そうした環境教育について計画の中で触れてほしい。

【委員長】ご指摘の点は学校教育とも関連する。

【武蔵野市ごみゼロ連合会】以下を計画の中に書き加えてほしい。

必要のごみ処理施設の大きさを正確に把握するため、ごみの量は重量ベースのほか容量ベースでも考える必要がある。

ごみ減量の意識向上のため、ごみ処理経費の見える化をしてほしい。

低炭素社会実現のための武蔵野スタイルのイメージをつくり、各町が競ってモデル事業に参加するような仕組みづくりをする。

ごみ処理方法は焼却だけではない。焼却が減れば低炭素社会になる。

湖南衛生組合の有効活用を考えていく。

【武蔵野の森を育てる会】緑の質として、特に生物多様性の高い緑ということを書き込んでほしい。

我々は学習しながら雑木林を育てている。雑木林を育てることは、ネットワークづくり、コミュニティづくりにも貢献するまちづくりである。生涯学習を通じたまちづくりの推進という視点を入れてほしい。

自分たちの地域の個性を生かしたまちづくりのため、市民が意見を戦わせながら一緒に計画をつくっていくことをもっと進めてほしい。可能なら、武蔵境地区の国木田独歩と里山をキーワードとした特色ある地域づくりについても言及してほしい。

【武蔵野農業ふれあい村】武蔵野市には特色の異なる公園がある。これは他に誇るべき売りである。それぞれの公園の特色ある管理技術をノウハウとして次世代に継承していくため、管理の特色に応じて緑のボランティア団体やNPO法人をネットワーク化する仕組みをつくってほしい。

市民が、自然生態系や摂理など広範囲かつ系統的に学んでいくための啓発的プログラムを組んでほしい。

上記を実行するため、役所の関係部署がネットワークを組むこと、あるいは自然環境まちづくりセンターのような独立した組織をつくっていくことを織り込んでほしい。

【吉祥寺南町防災ネットワーク】既存施設や未利用地を有効活用したい場合、市民が活用のアイデアを要望書として出しても、市側で塩漬けにされることがある。市民が望んだときに望んだ利活用ができるような行政のバックアップ体制を考えてほしい。

【むさしのエコ・アップ協議会】地球環境の維持は非常に重要な課題だが、市民で話し合って立派な計画をつくっても施策段階でしりすぼみになってしまうことがある。計画が絵にかいたもちで終わらないように、行政として基本的な考え方を市民に啓発していく必要がある。

【武蔵野クリーンセンター運営協議会】ごみの減量について、資源化などのリサイクルは仕組みづくりにかかる。施策として、これからはリサイクルよりも、リデュース（発生抑制）、リユース（再利用）が大切だ。

今後はごみ処理方法がいろいろ開発されていく。焼却処理以外の選択肢を念頭に置いて、ごみ処理の分散化の検討を進めてほしい。

【委員】ごみを減量すれば焼却による二酸化炭素が減り、処理施設の規模も小さくできる。市民がこのことを認識すれば税金をより効率的に使える。ごみ問題に限らず、情報が全市的に渡っていないという問題があるので、1人1人の市民に情報をどう伝えていくか検討していきたい。

【巨樹の会】巨木はお寺や神社にある。お寺をサロンとして開放し、死ぬときだけでなく生きてるときも利用したらどうか。

地方の限界集落では里山が荒れ放題だ。仕事のない若い人が里山の管理に携われるよう、収入面など自治体による援助を工夫できないか。

【F P 武蔵野グループ】高齢化社会を迎え、成年後見の問題、相続の問題、老人ホームの問題等、総合的に1カ所で相談できる場所を設けてはどうか。例えば武蔵野プレイスで週1回の相談日という形でもいいと思う。

【地域の省エネを進める会】地球環境は人類の問題だ。地球温暖化防止のための低炭素社会への移行など、基本構想・長期計画の中でもっと強調していいテーマだ。一地方自治体だからと遠慮することはない。

【東町はな・BANA会】 VIIの3の3)「緑豊かな都市環境の創出」の中に「公有地の緑は増加した」とある。これは恐らく西部地区のことだろう。東は相変わらず緑が減少している。誤解を与えないよう正確に記述するとともに、地域によらず、市民がひとしく緑の豊かさを味わえるような施策の方向性を示してほしい。

【委員】東側は、西側、中央部に比べ緑が少ないことは認識している。公園のリニューアル計画による緑のアップも含め、ご意見の内容について検討を進めていきたい。

【武蔵野市商店会連合会】吉祥寺グランドデザイン構想は、討議要綱には記述がないが、吉祥寺地区のまちづくりの根底であり、その位置づけを再度検討してほしい。

【委員長】グランドデザインも十分に踏まえ、今後、具体的に話を進めていきたい。

【吉祥寺活性化協議会】吉祥寺の商業は借地である。地主も加えたまちづくり株式会社のようなものをつくり、後継者問題、相続問題等にみんなで対応していったらどうか。

吉祥寺、中央地区、境はまちの形成が全く違う。地域ごとの特色あるまちづくりを計画の中に織り込んでほしい。

まちづくりの観点から、井の頭公園についての考え方も入れてはどうか。

【市民】武蔵野市内には絶滅危惧種にリストアップされている貴重な植物種が残っている。堺地区でも見られるその種は、我々が意識して保護していかないと絶滅してしまう。このことを計画にきちんと盛り込んでほしい。

【委員長】市民活動のバラエティーも力強さも4年前より増している。市民活動を支援する仕組みを考えることは重要かつ大きな課題だと改めて認識した。

————— 了 —————